



変わらざるもの

上五島・長崎巡礼⑮

昭和四十二年に長女「梨花」にしようとし
 が生まれた時、名前を たが「梨」は当用漢字

「梨」にも人名用漢字にもな
 くあきらめ
 た。

五十二年
 に「梨」は
 人名用漢字
 に加えら
 れ、さらに
 今回、常用
 漢字に追加
 された。

逆に今
 回、常用漢
 字から削除
 された。

常用漢字表に追加される100字
 追加された百九十六の常用漢字

された五文字。「勺」し
 やく、「刃」もんめ」
 は尺貫の単位を表す文
 字で、確かに今ではほ
 とんど使用されない。
 百九十六字の常用漢
 字追加の記事を読みな
 がら、漢字の世界は変
 化などはないと思つて
 いたのに、意外に世の
 流れに影響されている
 のに気づかされた。
 信仰も同様である。
 本来「真理」なるもの
 は変わらざるものであ
 るが、神への信仰も世
 中の価値観に大きく
 影響される。
 今、先進国では教会
 離れが目立ち、少数で
 ある日本の教会でも同

様で、子どもの教会離
 れ、聖職者、信徒の高
 齢化、若者不在が大き
 な問題になっている。
 先日、中国五島の教
 会代表者会議が広島で
 開催された。テーマは
 「お互いの立場を超え
 てきょうどう（共同・
 協同・協働）し、イキ
 イキとした信仰共同体
 を作るために」。

祈り」が唱えられてい
 た。最前列の五人の小
 学生が祈りを先唱し、
 二十人余りの大人がそ
 れに従って祈ってい
 た。その姿から「朝の
 祈り」「食前・食後の祈
 り」「晩の祈り」などを
 家庭で家族がそろって
 していることが想像さ
 れる。

分科会に分かれて話
 し合ったが、信仰の原
 点である「神とのきよ
 うどう」という視点に
 欠けているように思
 い、ふと上五島を旅し
 た時、江袋教会で感じ
 たことを思い出した。
 五島列島で二番目に
 大きな中通島の北にあ
 る江袋教会。キリシタ
 ン迫害を逃れ、長崎外
 海地方から小舟で渡つ
 て来た人たちの子孫は
 篤い信仰を持つ。大半
 の人が漁業で生計を維
 持している。

それでもキリスト教禁
 止、見つければ殺され
 るかもしれないという
 社会環境の中で、家族
 信仰共同体、地域信仰
 共同体で世の流れに逆
 らつても聖なる変わら
 ざるものを大切にしてい

生き抜いたのである。
 今、信仰の自由があ
 るにもかかわらず、宗
 教離れが目立つ。
 「梨花」という可憐
 な名前がつけられなか
 ったからでもあるまい
 が、長女はたくましく
 自分の価値観で結婚も
 せずにパレスチナの貧
 しい人たちのために働
 いている。私のように
 「神、神」と口にする
 こともない。信仰は知
 識や理論ではなく「生
 き方の問題よ」と私に
 言っているようにも思
 える。
 成田空港から電話が
 かかった。「今からパ
 レスチナに行つて来ま
 す」。
 （元山口放送取締役ラ
 ジオ局長）



焼失し、5月に再建されたばかりの江袋教会